

令和2年京都市はたちを祝う記念式典 二十歳の誓い

私は今、フィリピンの大学に通っています。高校1年生の時に友人と参加した2週間のフィリピン留学プログラムが、私の人生を大きく変える分岐点となったのです。

勉強も部活も思うように結果が出ない時期に、途上国の光景を目の当たりにし、私の中で何かが動き始めました。そして学歴と学費の壁に精神的に追い詰められる進路決定の際私が出した答えは、フィリピンの大学に進学することでした。周りからは、猛反対されました。でも、自分で決断するきっかけになったのは、「自分の足で行き、自分の目で見て、自分の心で感じたことを大切にしたい。」という課外活動で得た教訓でした。そして何ととっても日本の大学の1年間の学費でフィリピンの大学4年間の学費がまかなえることは私には魅力でした。一旦、決断したものの海外に飛び立つ直前まで、迷っている私の背中を色んな人が押してくれたおかげで挑戦することができました。

フィリピンの大学に進学して最初にぶちあたったのは、言葉の壁でした。入試のための英語学習が全く役にたちませんでした。自分を責め学校を欠席してしまうこともありましたが、日本から応援してくれる家族やフィリピンのホストファミリー、親身になって話を聞いてくれる現地で出会った人たちの助けがあって乗り越えることが出来ました。

現在大学に通いながら、NPO法人セブンスピリットという団体にかかわっています。子ども達に音楽とスポーツを通じたライフスキル教育を行っている団体です。音楽を手段として自分自身の努力で人生を変えていく姿に感動し、何か力になりたいと活動に参加しました。昨年秋子どもたち48名と日本を訪れ、京都にも3日間滞在しました。自分の生まれ育った京都のすばらしさを子どもたちの声を通して知り、すごく嬉しかったです。

これまでの20年間、色んな人との出会いに感謝しています。「自分の足で行き、自分の目で見て、自分の心で感じることを大切にしたい。」この言葉をベースに、将来は挑戦する人の背中を押し、自分の道を自ら作っていく人の力にもなりたいと思います。このことを私の二十歳の誓いとさせていただきます。

今日は私たちのために、このような盛大な記念式典を開催頂きましてありがとうございます。心からお礼申し上げます。

令和2年1月13日 新成人代表 上野 紗和